



生活道路ユーザーの納得感の高い 法定外表示の設置に関する研究

薬袋奈美子

日本女子大学

三寺潤

福井工業大学

三村泰広

大分大学



背景

住環境を改善する必要性

- 生活道路は最も身近な公共空間
 - 家の前は道。生活道路も多い。
 - 住宅地でも広い面積を占める
- 子育て期や高齢期の生活環境としても重要な要素



安全性や快適性が確保された歩車共存の生活道路

道路を管理する主体を育む必要性

- 管理への関心を高める
 - 少子高齢化時代のインフラ管理の課題
 - 生活空間の一部としての認識
- 交通環境への関心
 - 環境問題
 - 健康のためにも

国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」に示される歩車共存道路は、広幅員であり、限られた空間しかない生活道路には工夫が必要。

生活道路の機能は何か？

イギリスの運輸省：

Manual for Street (2007)

広い幹線道路ではなく、
住宅地内の通り



• 場

生活の場
コミュニケーションの場
...

• 移動

• アクセス

• 駐車

• 排水、ライフライン、街灯

R O A D : 車の移動が主な機能

S T R E E T : 建物が並び、公共空間がある。

移動が主たる機能ではあるが他の機能、
例えば“場”として使われることが最重要

歩車共存を容認する Woonerf/ Wohstrasse （生活の庭・生活の道）を 日本でも実現するためにも 道全体の雰囲気作りが大事



生活道路における法定外表示

法定外表示とは

- 交通の安全と円滑を図り、交通規制の実効性を高めることを目的として設置する路面表示やカラー舗装及び看板で、（中略）法令で定められたものの以外のもの
- 標準仕様が通達により示されたものもある。（以下の写真）

止まれ



交差点クロスマーク



自転車レーン



研究対象として扱う理由

- 生活道路を生活空間とするためには、既存の交通規制や、交通静音化デバイス（ハンブや狭窄等）のみでは限界がある。
- 道全体の雰囲気を変えることも可能
- 比較的安価に施工でき、撤去もしやすい
- 狭隘な道路でも導入可能

目的

法定外表示の決定方法を明らかにし
住民が主体的にかかわりながら
これからの生活道路整備の一環として
法定外表示の可能性を検討

対象

(基本的には) 住宅地内の生活道路



本研究の構成

1) 法定外表示の事例収集

2) 法定外路面表示の導入実態

法定外表示設置に関わる自治体（道路管理者）の設置ルールに関する調査

3) 法定外路面表示の導入プロセスの分析

住民が関わりデザインの検討された法定外表示の設置プロセスの現地調査・ヒアリング調査

4) 法定外路面表示への住民の意識

周辺住民の法定外表示への認識と生活道路管理に関わる意識調査

1) 法定外表示 事例収集

生活道路における、ガイドラインで標準仕様が示されていない法定外路面標示の事例収集。

インターネット、新聞等の検索より

国内の事例



神戸市



川崎市



大阪市



富士見市



豊後高田市



金沢市 google map



十日町市

海外にも様々な法定外表示がある



オックスフォード



コペンハーゲン



ウィーン



ポートランド

2) 法定外路面表示の導入実態

47都道府県庁、政令市の道路管理者へのアンケート調査より

◇アンケート調査概要

調査名：生活道路における「人の安全に関わる路面に施される法定外表示」に関するアンケート

調査対象：県庁所在地＋政令指定都市の計52自治体

調査期間：2024年8月～9月

配布方法：郵送

配布部数：52部

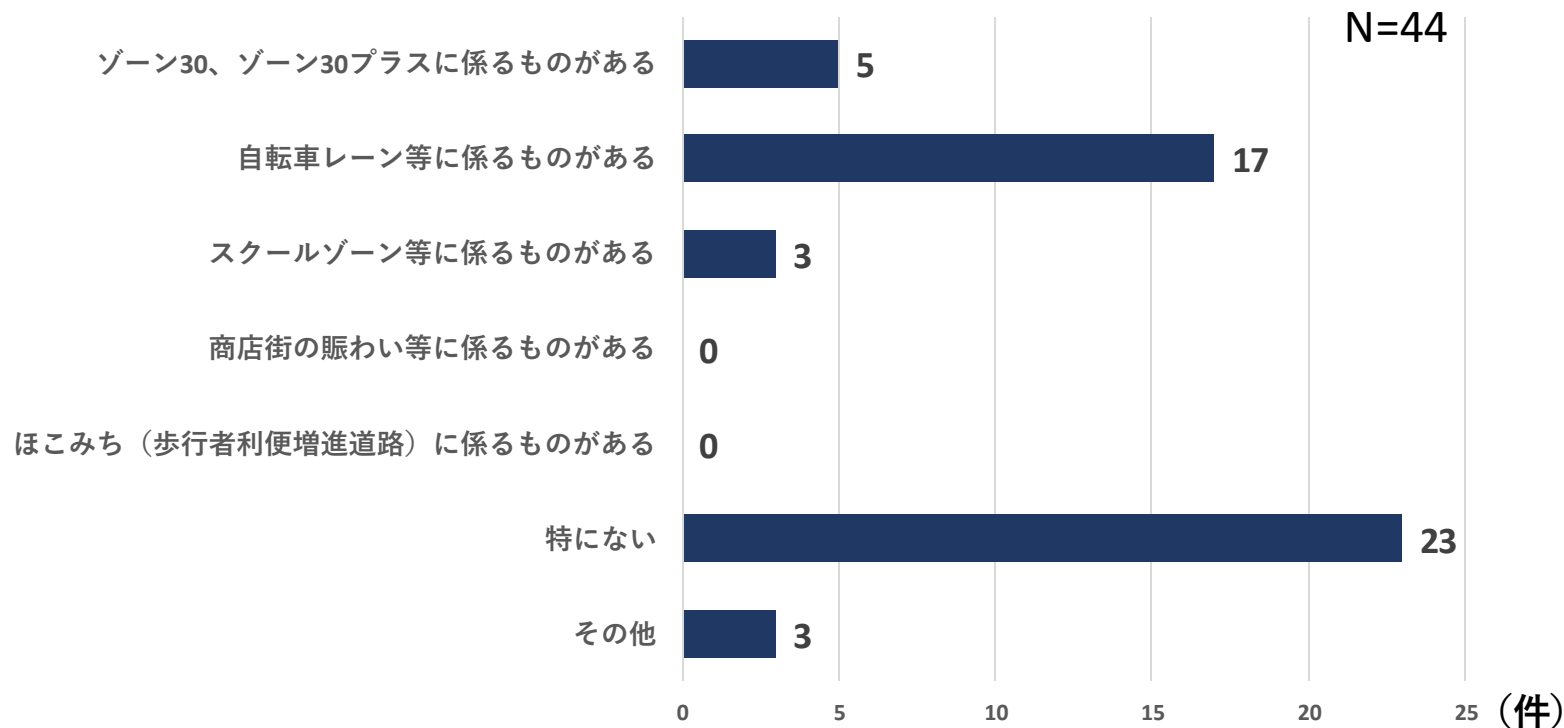
回収部数：44部（郵送17件、メール21件、Microsoft Forms6件）

回収率：84.6%

◇主な調査項目

- ・生活道路での法定外路面表示の設置に係る独自基準の有無
- ・法定外路面表示設置時の交通管理者や近隣住民等への相談の有無
- ・警察庁の通達に例示されていない独自の法定外路面表示の有無
- ・住民主体でデザイン及び導入された事例の有無
- ・法定外路面表示やその他表示に関して抱えている課題

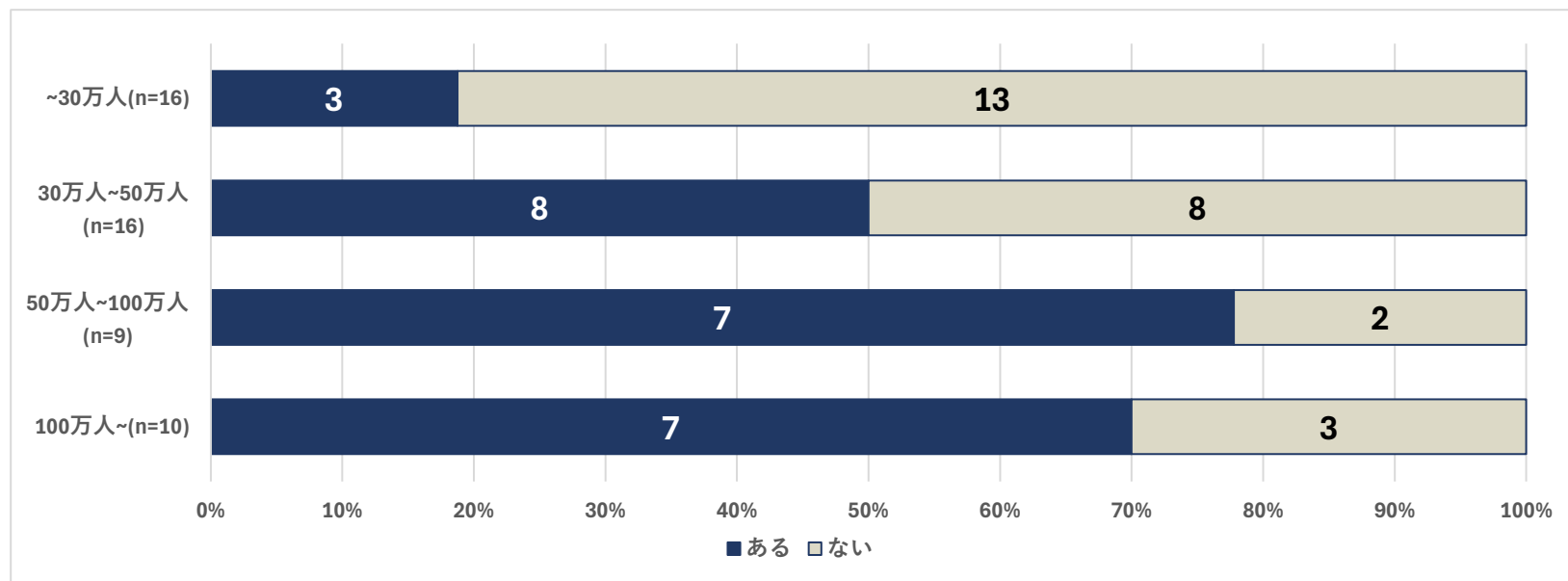
◇法定外路面表示に関する独自の基準



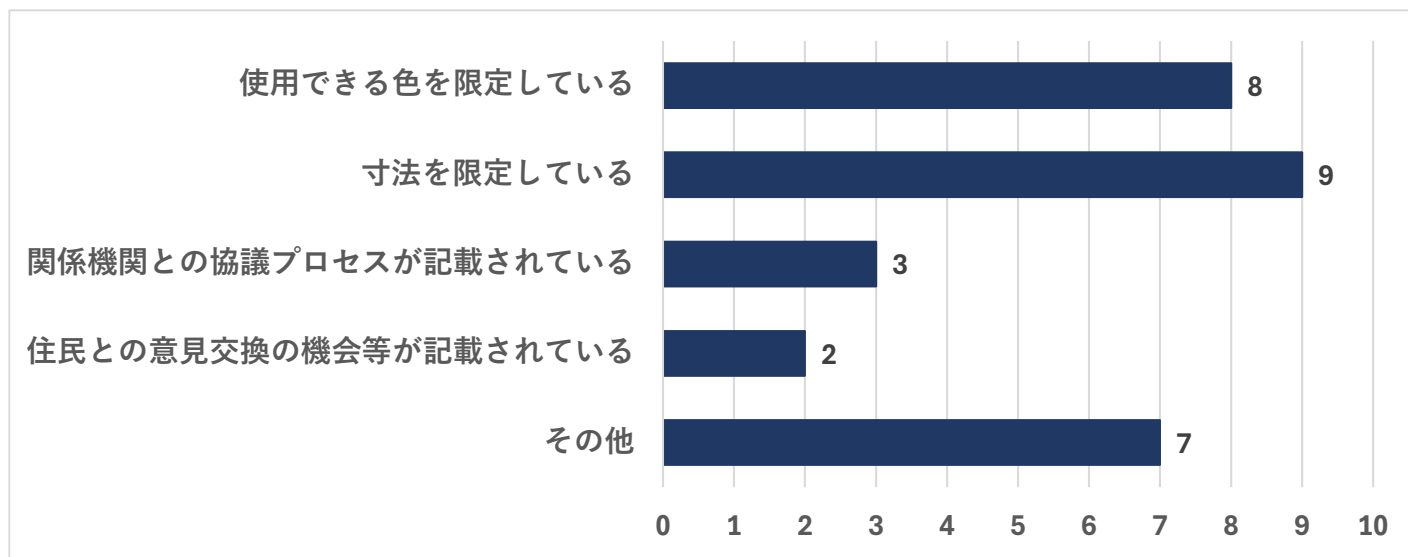
→過半数（23/44）の自治体が独自の基準はないと回答した。

「ある」と答えた自治体においては「自転車レーンに係るもの」の割合が最も高い

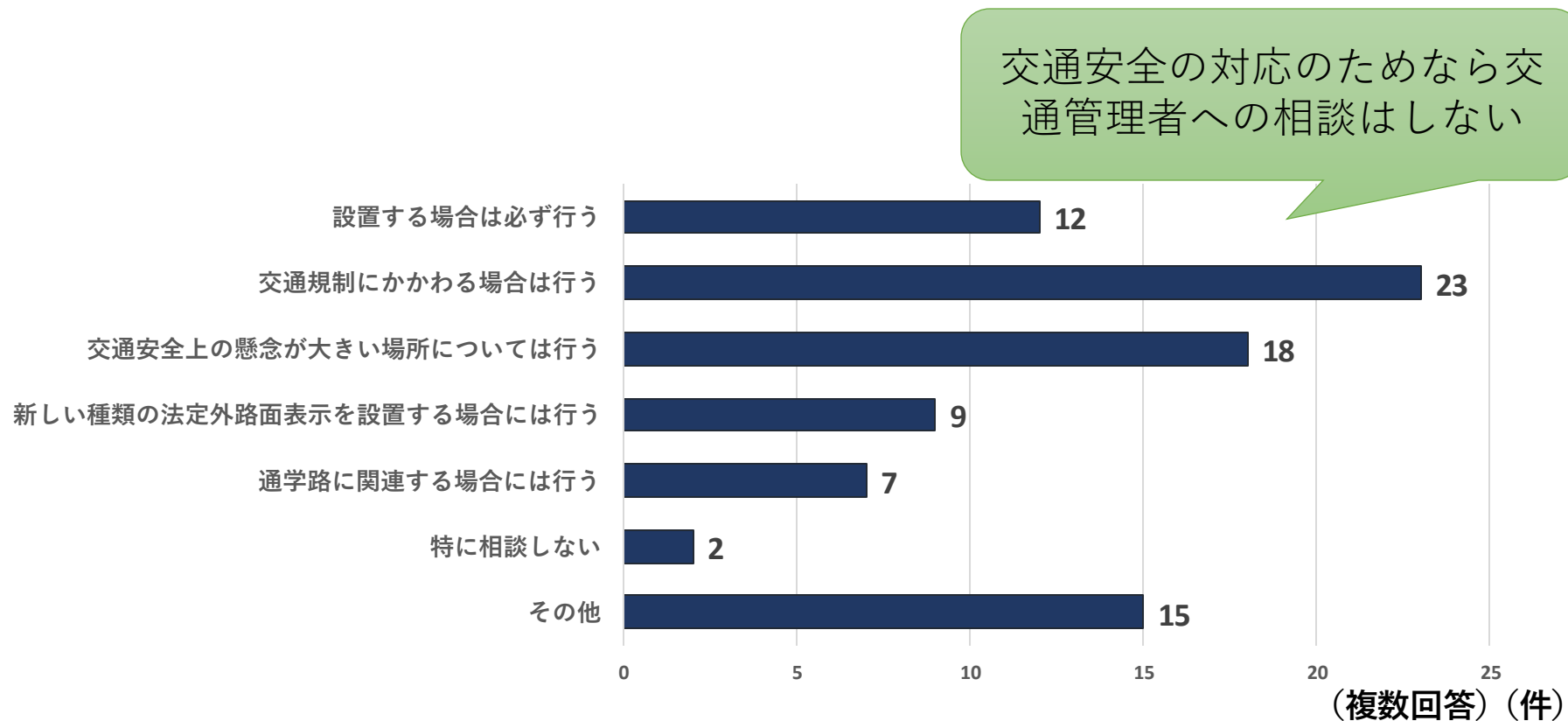
◇規模の大きい自治体ほど独自の基準有す



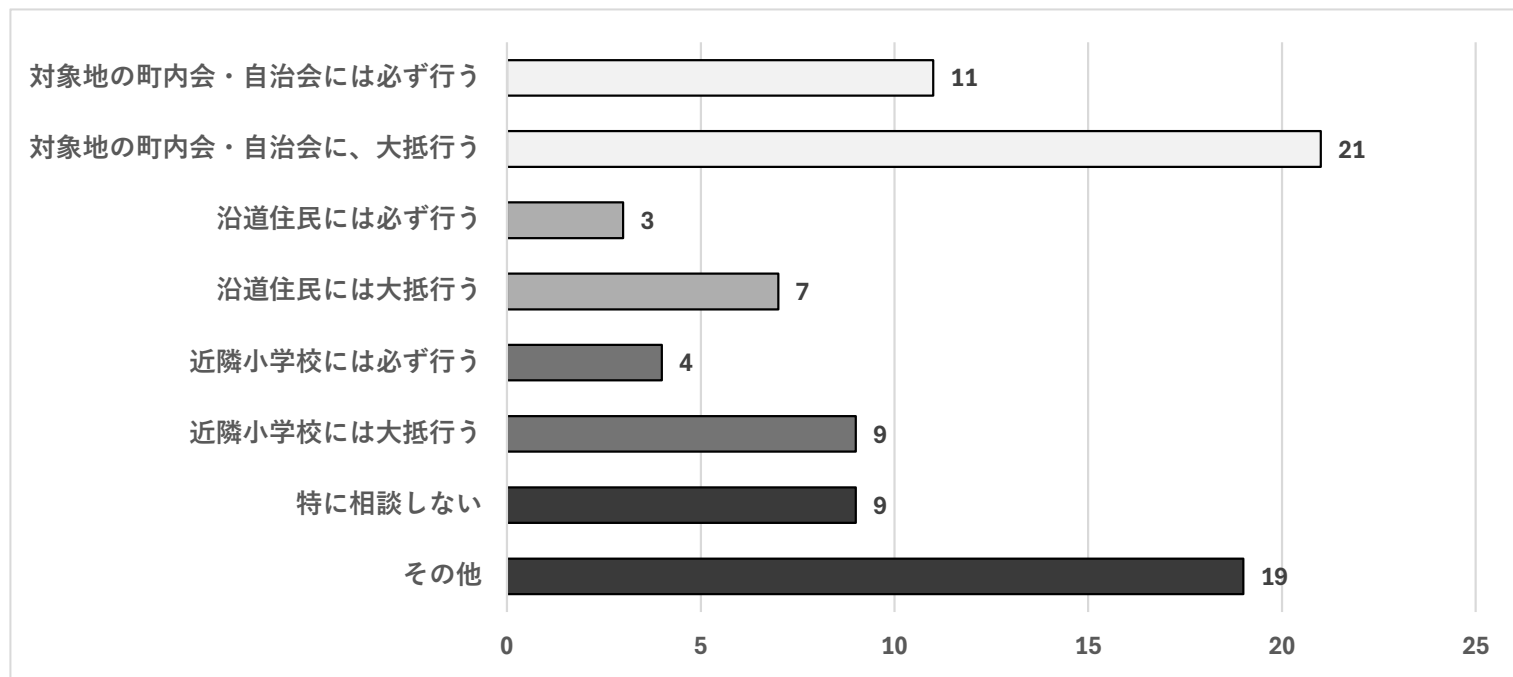
◇基準の内容で特徴的な点（複数回答）



◇法定外路面表示設置時の相談（交通管理者）



◇法定外路面表示を設置する場合の近隣住民等への説明・相談を行う範囲と程度（複数回答）



◇法定外路面表示の導入実績

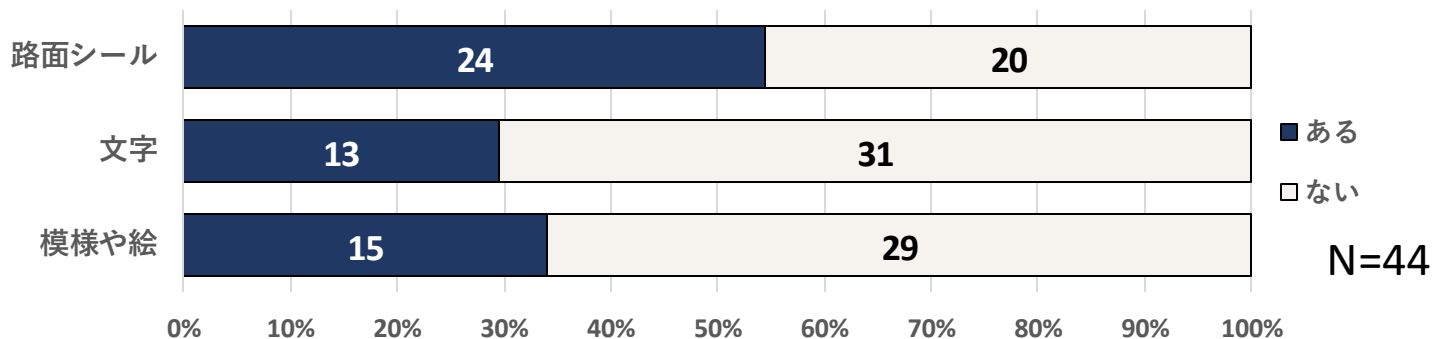
路面シール



文字



模様や絵



→ 「路面シール」は「文字」や「模様や絵」に比べて導入率が高い。

◇法定外路面表示の導入実績

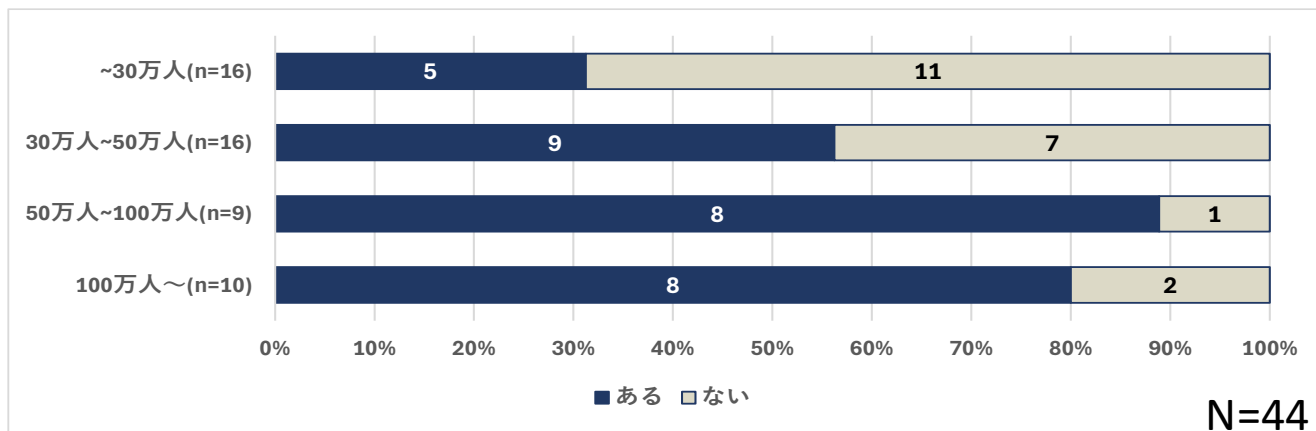
路面シール



文字

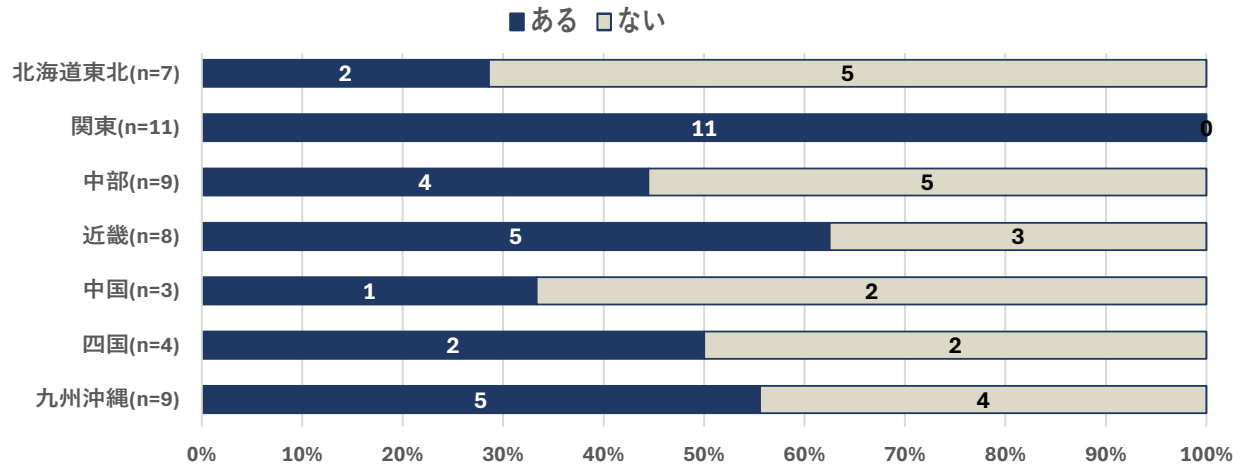


模様や絵

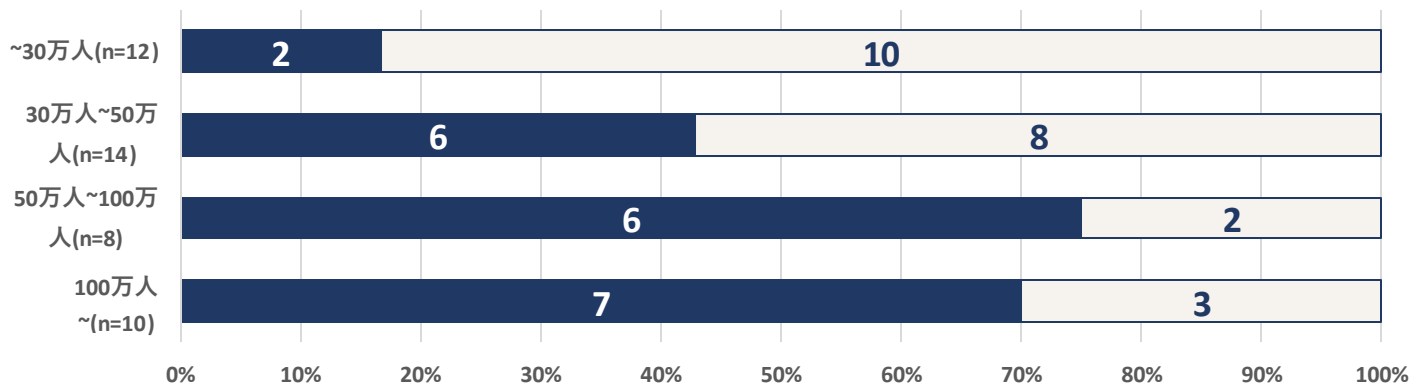


◇独自の法定外表示の導入（路面シール）

▶地域別

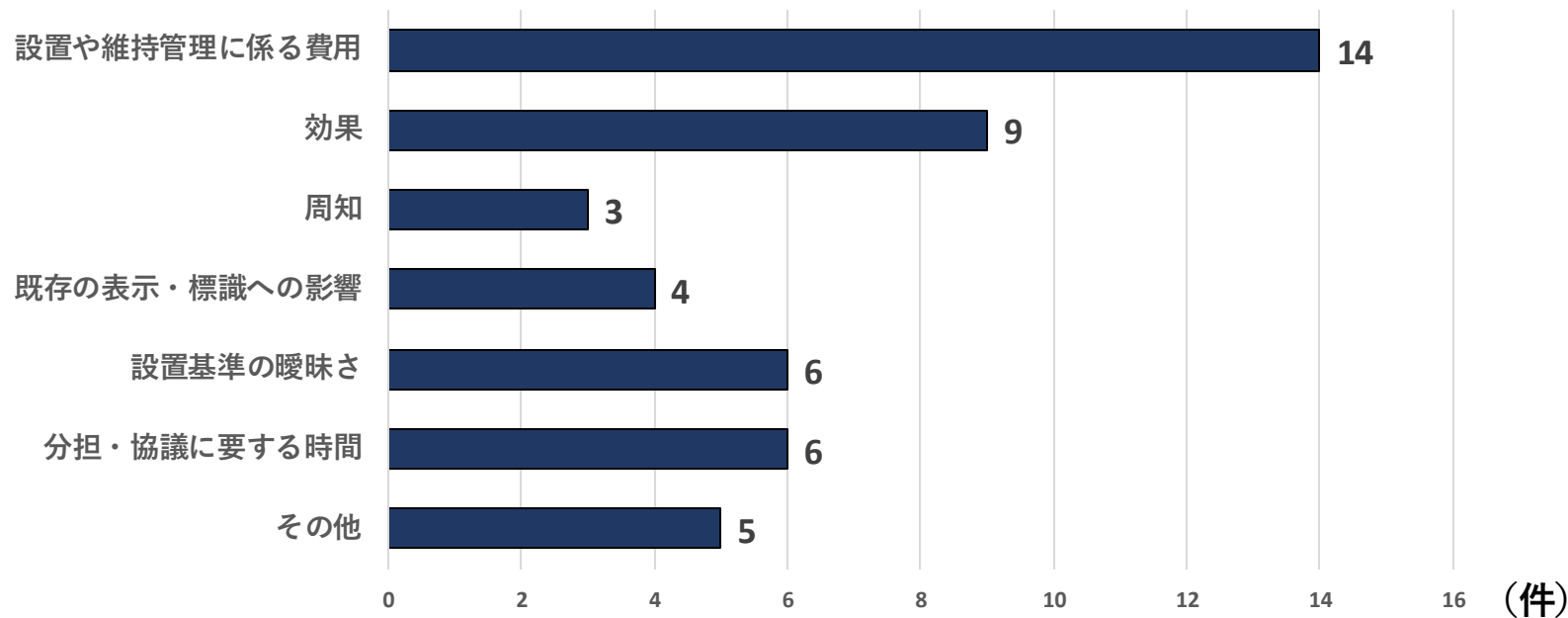


▶人口規模別



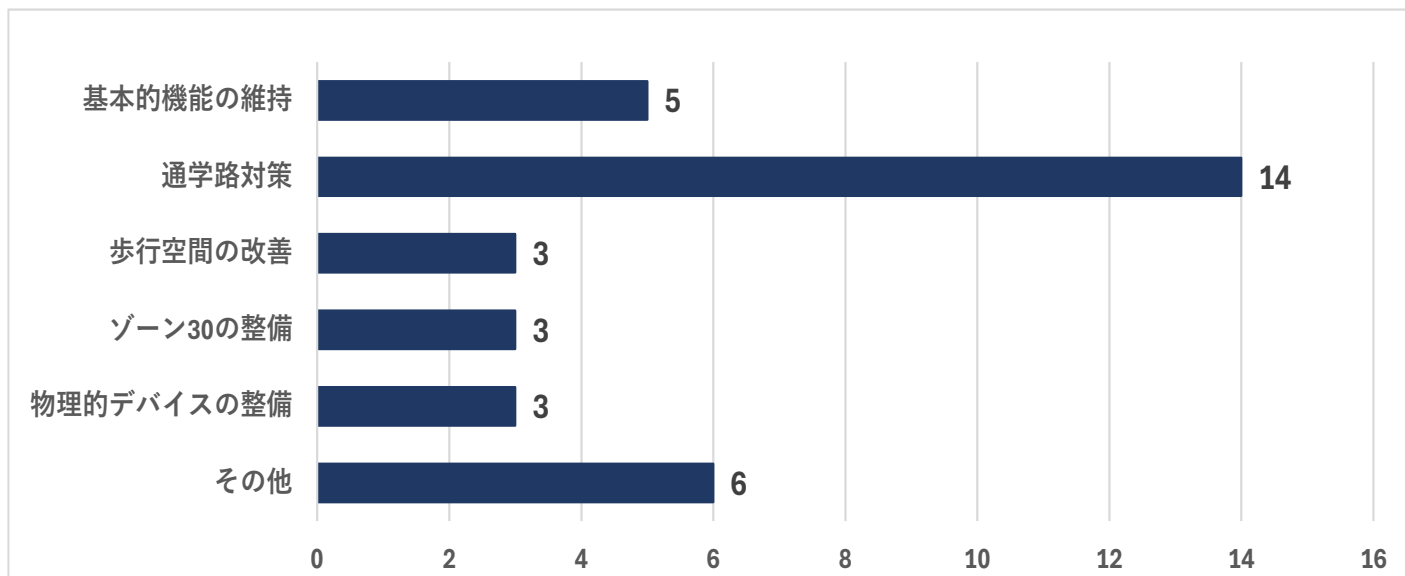
→概ね人口規模の大きい階級ほど、独自基準を持つ自治体の割合が高い
一方で、人口上位の3自治体（横浜市、大阪市、名古屋市）は基準を持っていない

◇法定外路面表示やその他表示に関して課題と感じていること



→「設置や維持管理に関する費用」や「効果」を課題と感じている自治体が多い。
慣れが生じる、表示が剥がれる等の理由から効果の持続性に課題

◇生活道路の改善にあたって、
近年課題としていることや優先的に改善しようとしている事柄



3) 法定外路面表示の 導入プロセス

住民が関わりデザインの検討された法定外表示の設置
プロセスの現地調査・ヒアリング調査

◇独自の法定外路面表示導入事例の設置プロセス

住民参加なし

佐賀県



ウインカー

福岡県吉富町



あ、危ねー！

一部住民参加有り

鎌倉市



思いやり

福岡県大刀洗町



あぶなかばい

住民参加あり

長浜市



? 注意

宇佐市



ぼっ！

北九州市



スピードちゅうい！

①設置のきっかけが住民の要望である場合、 デザイン及び導入に住民が関わる傾向がある

住民参加	参加無し		一部参加あり		参加あり		
自治体	佐賀県	吉富町	大刀洗町	鎌倉市	宇佐市	長浜市	北九州市
①設置のきっかけ	他県の人から佐賀県民の運転マナーについて指摘	通学路点検により対策の必要性あり	地区区長から表示の設置要望	歩行者尊重事業	地区区長が歩道未整備への不安から対策を要望	近隣高校生の自転車マナーについて住民から指摘	子どもの乱横断について町内会長から指摘
②導入	積極的設置	消極的設置	積極的設置	消極的設置	積極的設置	積極的設置	積極的設置
③効果測定	不明	不明	不明	実施	不明	未実施	未実施
④住民参加の方法			地区区長が文言を提案	ワークショップ参加（デザインには関与せず）	業者とともにデザイン検討	高校生が授業でデザイン提案	小学生がワークショップでデザイン提案
⑤住民の反響	なし	あり	あり	なし	あり	あり	なし
⑥デザインの特徴	特産品の使用	方言の使用	方言の使用	立体的に見える	方言の使用		
⑦プロセスの特徴	設置のきっかけの特殊性	他事例を参考に表示の導入可否を係で協議	町は「交差点注意」の文言を計画	デザインに専門家の意見を取り入れている	表示のデザインを業者と住民で行った	担当者の対応が柔軟であった	町内会が活発に活動した
	他事例を参考にした	警察との協議が行われていない	区長が子供でも読めるひらがなを提案	複数回協議を行った	表示が好評で他地区にも増設された	市と県との連携が行われていた	多くの組織、個人の関与があった
			区長が親しみやすさから方言の使用を提案	設置前後の効果検証を行った		マナーを指摘された高校生自身がデザイン	交通安全教育としての一面を持つ

②法定外表示の導入は以下の2パターンに分類できる。

「積極的設置」：道路整備の手法として初めから法定外路面表示の設置を検討

「消極的設置」：物理的デバイス等の導入が困難なため法定外路面表示を設置

住民参加	参加無し		一部参加あり		参加あり		
自治体	佐賀県	吉富町	大刀洗町	鎌倉市	宇佐市	長浜市	北九州市
①設置のきっかけ	他県の人から佐賀県民の運転マナーについて指摘	通学路点検により対策の必要性あり	地区区長から表示の設置要望	歩行者尊重事業	地区区長が歩道未整備への不安から対策を要望	近隣高校生の自転車マナーについて住民から指摘	子どもの乱横断について町内会長から指摘
②導入	積極的設置	消極的設置	積極的設置	消極的設置	積極的設置	積極的設置	積極的設置
③効果測定	不明	不明	不明	実施	不明	未実施	未実施
④住民参加の方法			地区区長が文言を提案	ワークショップ参加（デザインには関与せず）	業者とともにデザイン検討	高校生が授業でデザイン提案	小学生がワークショップでデザイン提案
⑤住民の反響	なし	あり	あり	なし	あり	あり	なし
⑥デザインの特徴	特産品の使用	方言の使用	方言の使用	立体的に見える	方言の使用		
⑦プロセスの特徴	設置のきっかけの特殊性	他事例を参考に表示の導入可否を係で協議	町は「交差点注意」の文言を計画	デザインに専門家の意見を取り入れている	表示のデザインを業者と住民で行った	担当者の対応が柔軟であった	町内会が活発に活動した
	他事例を参考にした	警察との協議が行われていない	区長が子供でも読めるひらがなを提案	複数回協議を行った	表示が好評で他地区にも増設された	市と県との連携が行われていた	多くの組織、個人の関与があった
			区長が親しみやすさから方言の使用を提案	設置前後の効果検証を行った		マナーを指摘された高校生自身がデザイン	交通安全教育としての一面を持つ

③設置効果の測定は難しく、行っていない自治体も多い。

住民参加	参加無し		一部参加あり		参加あり		
自治体	佐賀県	吉富町	大刀洗町	鎌倉市	宇佐市	長浜市	北九州市
①設置のきっかけ	他県の人から佐賀県民の運転マナーについて指摘	通学路点検により対策の必要性あり	地区区長から表示の設置要望	歩行者尊重事業	地区区長が歩道未整備への不安から対策を要望	近隣高校生の自転車マナーについて住民から指摘	子どもの乱横断について町内会長から指摘
②導入	積極的設置	消極的設置	積極的設置	消極的設置	積極的設置	積極的設置	積極的設置
③効果測定	不明	不明	不明	実施	不明	未実施	未実施
④住民参加の方法			地区区長が文言を提案	ワークショップ参加（デザインには関与せず）	業者とともにデザイン検討	高校生が授業でデザイン提案	小学生がワークショップでデザイン提案
⑤住民の反響	なし	あり	あり	なし	あり	あり	なし
⑥デザインの特徴	特産品の使用	方言の使用	方言の使用	立体的に見える	方言の使用		
⑦プロセスの特徴	設置のきっかけの特殊性	他事例を参考に表示の導入可否を係で協議	町は「交差点注意」の文言を計画	デザインに専門家の意見を取り入れている	表示のデザインを業者と住民で行った	担当者の対応が柔軟であった	町内会が活発に活動した
	他事例を参考にした	警察との協議が行われていない	区長が子供でも読めるひらがなを提案	複数回協議を行った	表示が好評で他地区にも増設された	市と県との連携が行われていた	多くの組織、個人の関与があった
			区長が親しみやすさから方言の使用を提案	設置前後の効果検証を行った		マナーを指摘された高校生自身がデザイン	交通安全教育としての一面を持つ

住民の参加なし

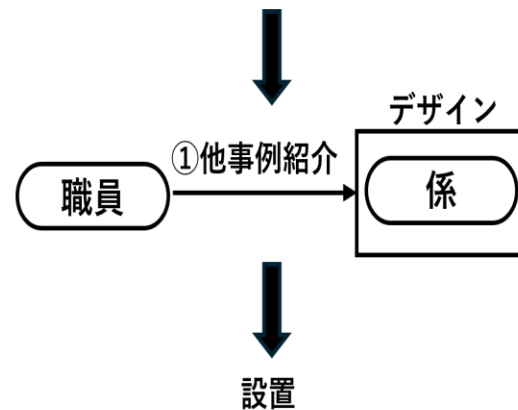
福岡県吉富町

* 交通静音化のために、自治体職員
による試行錯誤で設置



設置の背景

通学路点検で危険箇所とされた町道に対して対策を行うこととなった
歩道の設置や道路拡幅が困難で、苦肉の策で法定外路面表示を設置することになった



効果・反応

地元の人からは「効果があった」「事故が少なくなったのではないかと」喜ばれている



一部参加あり

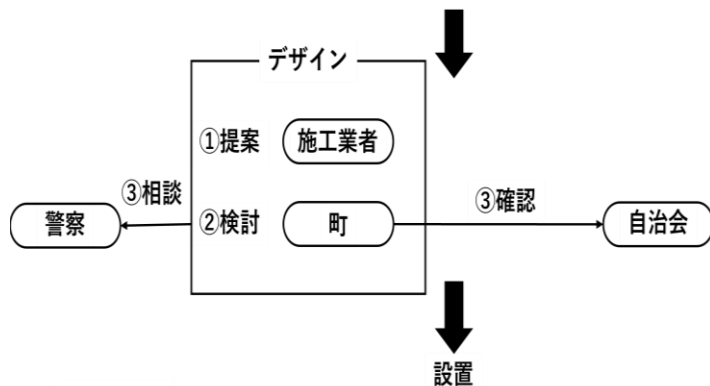
沖縄県北谷町



* 施工業者からの提案と
住民の同意で実現

設置の背景

自治会から町へ安全対策の依頼があった



効果・反応

設置により慎重に運転する車が増えた。
評判が広まり、別地域にも設置された。

一部参加あり

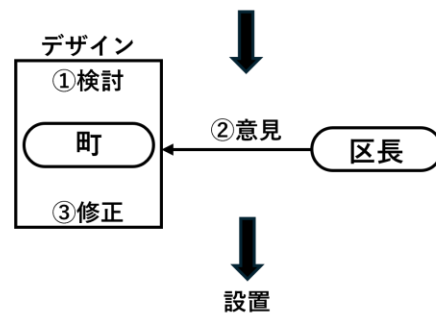
福岡県大刀洗町



* 自治体職員と住民（区長）との相談で方言を導入することに

設置の背景

地元の区長から「交差点に表示をして欲しい」と言われた



効果・反応

評判が良く、事故も無くなった

参加あり

滋賀県長浜市

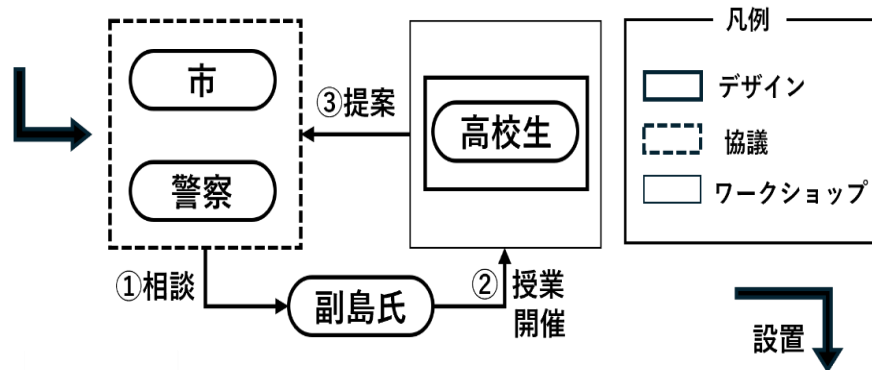
ゲームに登場するデザインを
高校生による提案で採用



- * 地域と連携した課題解決授業時間とそれを支える専門家の存在
- * 設置の具体は市担当者中心に実施

設置の背景

住民から、伊香高校の生徒が自転車でスピードを出しており危ないとの意見があった



効果・反応

住民からは設置を喜ぶ声が聞かれている
路面表示の授業が高校生活の中で最も楽しい授業だった、と答える生徒もいた

参加あり

大分県宇佐市

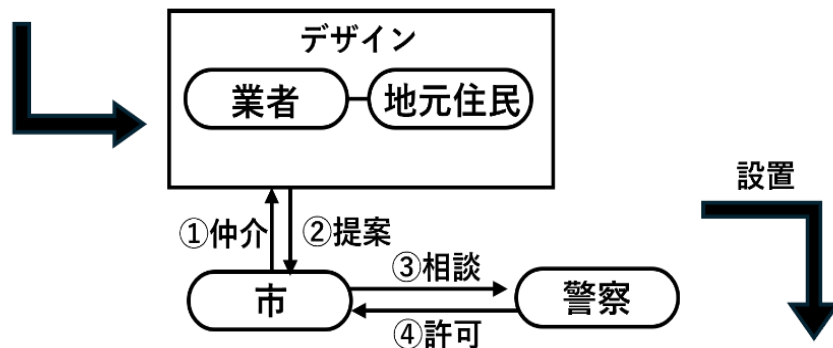
* この地区の住民がよく使う感嘆詞を利用することでの注意喚起。

* 業者と住民のやりとりがあることで実現



設置の背景

地区の区長から当該道路について「子供たちが多く利用するが歩道の整備がされていない、何か緊急の対策が出来ないか」との声があった。



効果・反応

地元の方からは喜ばれている
他の自治区の区長にも好評で、他地区にも設置が広がった。

参加あり

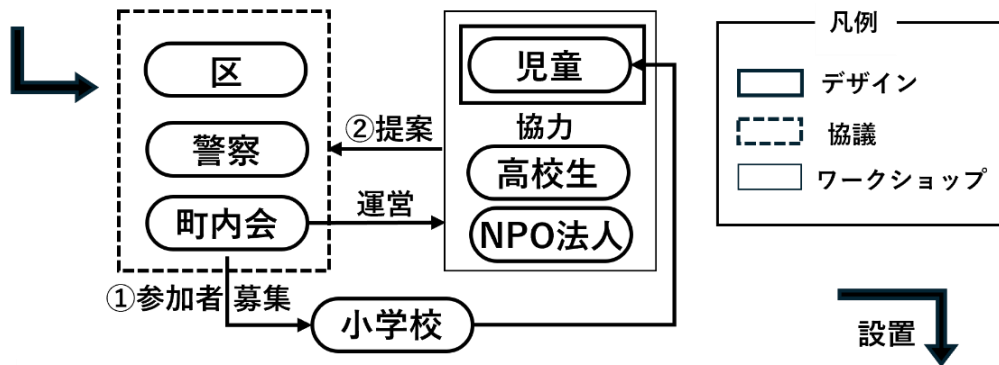
福岡県北九州市

* 子供たちの乱横断を抑止するために、子供に法定外表示を提案させる

* 子供との対話に慣れたNPOと、町内会との連携

設置の背景

にれの木坂団地での子供の乱横断が問題となっていた



効果・反応

住民からの反響はない

ワークショップ参加者の感想は不明

4) 法定外路面表示への 住民の意識

周辺住民の法定外表示への認識と生活道路管理に関わる意識調査

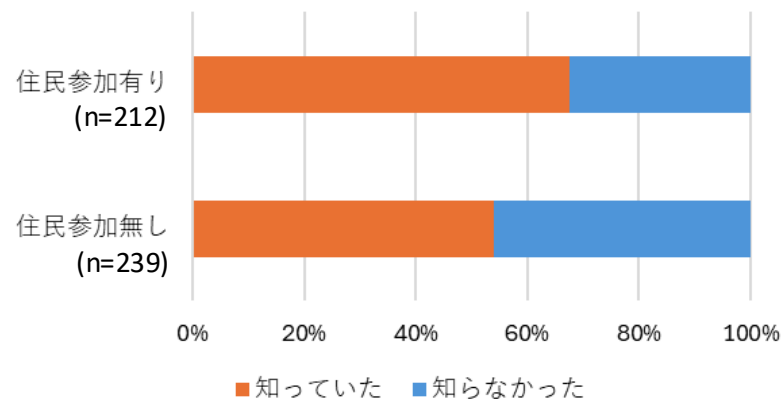
◇アンケート調査概要

調査名 住宅地内の道路に関するアンケート調査	
調査期間	2025年2月6日頃～2月26日（web回答：2025年2月6日頃～3月7日）
調査対象	11事例：住民参加あり（3事例）、なし（8事例※ ² ）
調査方法	郵送及びweb Form
形式	アンケート調査
配布部数	5531部
回収部数	567 部（うち有効回答数467件）：住民参加あり（215件）、なし（249件）
回収率	約10.3%
主な調査項目	・自宅前道路について（期待する機能・愛着感・維持管理意識） ・法定外路面表示について（認知・愛着感・維持管理意識） ・地域への愛着意識 ・回答者の属性（対象道路の利用頻度・家族構成・性別・年代・居住年数）

※1事例では導入プロセスの認識に誤りがあったことから、事後に住民参加有りから無しへ変更した。この地域については分析対象としない。

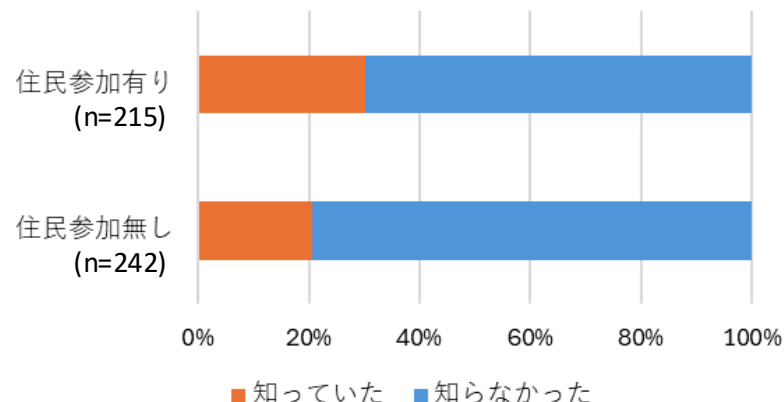
検討等に参加のある地区のほうが 認識度合高い。

対象法定外表示の認識



χ^2 検定 p値=0.005

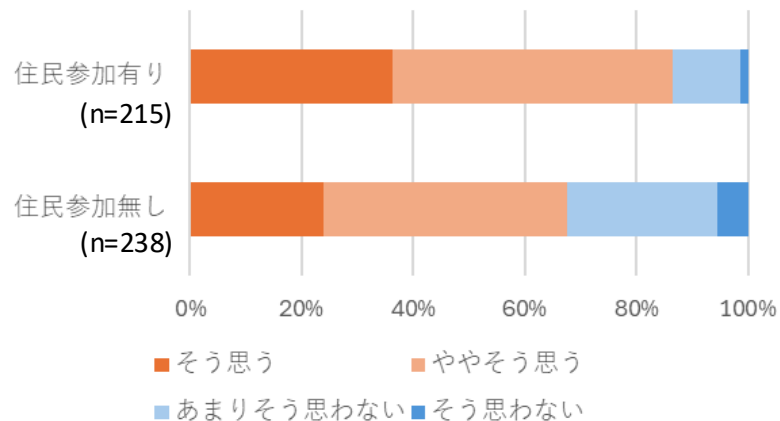
対象法定外表示設置目的の認識



χ^2 検定 p値=0.025

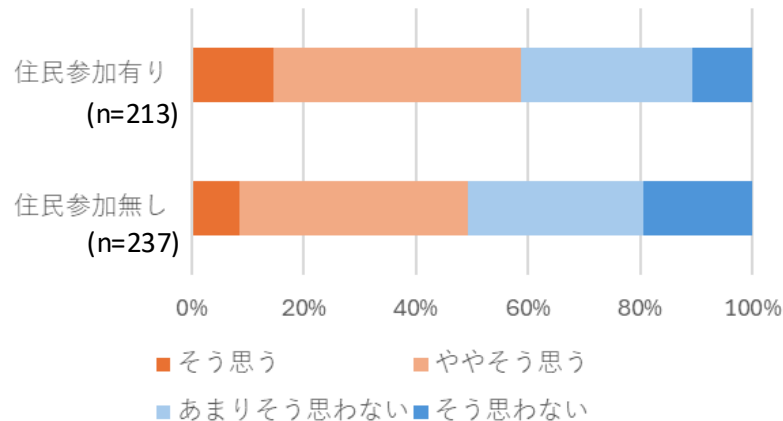
住民参加があった地区のほうが 道の管理への関心が高い

住民参加の有無別 大切に思う気持ち



χ^2 検定 p値<0.001

住民参加の有無別維持管理への意欲



χ^2 検定 p値=0.024

まとめ

a) 法定外路面表示の導入実態把握

- 設置基準等を持たない自治体が半数を占め、規模の大きい自治体ほど基準があり、独自の表示を導入。
- 自治体で**担当者の判断により対応が異なり**、法定の内容でなく**交通安全のためであれば、相談しない自治体も多い**。
- 道路管理者でなく、**安全管理部署が設置すること**も。
- **自治会・町内会単位と対話**。住民と直接的なやり取りを行う自治体は少ない

b) 法定外路面表示の導入プロセス

- 住民の要望であれば、**デザイン及び導入に住民が関わる傾向**
- **地域性の高いデザインの検討**が行われている
- 住民が主体的に関与した事例では、**設置プロセス通した教育的側面も**
- **路面表示施工業者のアドバイスも重要**

c) 法定外路面表示への住民参加により

- 法定外路面表示に対する**認知や愛着**、今後の取り組みへの参加意向も。
- 表示に対する愛着が高まり、**管理にも関心**



*本研究の実施には、日本女子大学・大学院の学生（当時）、中川晴賀さん、横田茜さん、岡本雛鞠さんの協力を得ました。感謝をしてここに記します。